

基本方針及び施策目標の取組状況

函館市交通事業経営ビジョン進行管理全体総括(平成29年度まで)

平成29年度につきましては、平成29年3月末から利用を開始した全国相互利用交通系ICカードICAS-nimocaの普及などにより、計画を上回る乗車料金収入を確保しました。

安全性や利便性の向上へ向けた取組として、老朽化した車両に替えて超低床車両を導入し、その他、車両の車体改良や停留場へのスロープ設置などの施設整備を計画どおり実施するとともに、ICカードシステムの定期券導入へ向けた取組を進めました。

また、財政計画においては、計画を上回る累積財源残額を確保しています。

これらの結果として、平成29年度までの交通事業経営ビジョンの取組状況は、「概ね順調」と考えています。

上段:評価件数 下段:割合

基本方針および施策目標		「B」評価以上	「A」評価	「B」評価	「C」評価	「D」評価	計
1 安全で信頼できる公共交通	(1)安全性の向上	4	0	4	0	0	4
	計	4	0	4	0	0	4
		100%	0%	100%	0%	0%	100%
2 便利で快適な輸送サービスの提供	(1)快適性の向上	2	0	2	0	0	2
	(2)利便性の向上	5	0	5	0	0	5
	計	7	0	7	0	0	7
		100%	0%	100%	0%	0%	100%
3 まちや地域への貢献	(1)地域社会への貢献	3	0	3	0	0	3
	計	3	0	3	0	0	3
		100%	0%	100%	0%	0%	100%
4 経営基盤の強化	(1)収益力の向上	2	0	2	0	0	2
	(2)経営の効率化	2	0	2	0	0	2
	計	4	0	4	0	0	4
		100%	0%	100%	0%	0%	100%
合計		18	0	18	0	0	18
		100%	0%	100%	0%	0%	100%

A : 完了した・計画を上回っている
B : 概ね計画どおりに進んでいる

C : 計画を下回っている
D : 著しく計画を下回っている

交通事業経営ビジョンにおける主要施策の取組状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン該当頁)	主要施策	取組状況	評価
1 安全で信頼される公共交通	(1)安全性の向上(P28)	①施設の計画的な改良・更新	函館アリーナ前、湯の川温泉電車停留場安全地帯へのスロープ設置、函館駅前電車線路の改良、軌道分岐器(谷地頭)の更新などを実施しました。	B
		②運転技能向上への取組推進	立哨、添乗指導に加えて、実際の運行画像を使用した事故防止研修を実施しました。	B
		③安全管理体制の強化	運輸安全マネジメントの推進に向けて、安全方針や安全重点施策を策定し、各種訓練や研修を実施しました。また、安全管理体制を確認するために内部監査を実施しました。	B
		④軌道内電車優先運行についての啓発強化	運転管理者講習会や免許証高齢者講習などにおいて啓発リーフレットを配布(2,900枚)しました。また、企業局だより・ラジオによる広報を実施しました。	B
2 便利で快適な輸送サービスの提供	(1)快適性の向上(P30)	①車両の更新・改良	超低床車両1両を導入し、2両の車体改良を実施しました。	B
		②職員の接客マナーの向上	接客研修を実施したほか、お客さまから寄せられたご意見に基づきサービスの向上に努めました。	B
	(2)利便性の向上(P31)	①情報発信の強化	電車ロケーションシステムの導入へ向けた調査を実施しました。	B
		②ICカードシステムの活用	IC定期券導入へ向けた取組を進め、平成30年度より運用を開始しました。	B
		③乗客需要に見合った適切な運行本数の確保	ICカードの利用データを基に乗客動向の調査を実施しました。また、マラソンなどのイベントに対応し、増車運行を実施しました。	B
④料金体系についての調査研究	IC定期券導入に向けて、割引率や期間などの見直しについて検討を進め、平成30年度より運用を開始しました。	B		
⑤交通機関相互の連携強化	平成28年度末に函館バスと連携しICAS-nimocaカードを導入し、乗り継ぎ割引制度を拡充しました。(平成29年度末発行枚数36,472枚)	B		
3 まちや地域への貢献	(1)地域社会への貢献(P32)	①地域を支える取組の推進	港まつり花電車の運行や、バル街など地域のイベントに協力した増車運行を実施しました。また、中心市街地活性化事業により、松風町、千代台の停留場を改良しました。	B
		②人にやさしい公共交通へ向けた取組の推進	超低床車両を導入したほか、函館アリーナ前、湯の川温泉電車停留場の安全地帯にスロープを設置しました。また、松風町、千代台の停留場をバリアフリー対応に改良しました。	B
		③環境負荷の低減	車両の更新に際してエネルギー効率の良い車両を導入しました。また、関係機関と連携してノーマイカーデーなどの啓発活動を実施しました。	B
4 経営基盤の強化	(1)収益力の向上(P33)	①市電の利用促進	料金表示器や車内案内に中国語を追加し、多言語化を拡充しました。また、市電沿線で利用促進に係るチラシを各戸に配付(3,700枚)しました。	B
		②広告料収入の確保	他都市の広告料金などについて調査を実施しました。	B
	(2)経営の効率化(P34)	①コスト削減の取組の推進	新たな防錆塗料を試験的に車両に塗布し、車体の劣化状況について調査を実施しました。	B
		②効率的な組織づくり	他都市の状況について、民間への委託内容などの調査を実施しました。	B

A : 完了した・計画を上回っている

B : 概ね計画どおりに進んでいる

C : 計画を下回っている

D : 著しく計画を下回っている

交通事業 財政計画

(税込単位:百万円)

区 分		H29			H30		
		計画	決算	比較	計画	予算	比較
収 益 的 収 支	乗車料金収入	1,004	1,048	44	1,000	1,000	0
	一般会計繰入金	326	325	△ 1	343	334	△ 9
	長期前受金戻入	129	122	△ 7	119	118	△ 1
	その他	65	68	3	67	49	△ 18
	収 入 計	1,524	1,563	39	1,529	1,501	△ 28
	人件費	627	611	△ 16	627	638	11
	退職給付費	48	45	△ 3	34	36	2
	物件費	549	539	△ 10	514	489	△ 25
	支払利息	14	12	△ 2	13	12	△ 1
	その他	357	357	0	364	364	0
支 出 計	1,593	1,564	△ 29	1,551	1,539	△ 12	
損 益	△ 69	△ 1	68	△ 22	△ 38	△ 16	
資 本 的 収 支	企業債	252	275	23	300	248	△ 52
	国庫補助金	81	78	△ 3	42	47	5
	一般会計繰入金	61	59	△ 2	32	35	3
	その他	0	0	0	3	0	△ 3
	収 入 計	394	412	18	377	330	△ 47
	建設改良費	402	420	18	378	331	△ 47
	企業債償還金	148	148	0	152	152	0
	その他	0	0	0	0	0	0
	支 出 計	550	568	18	530	483	△ 47
	資本的収支不足額	△ 156	△ 156	0	△ 153	△ 153	0
補 て ん 財 源	228	221	△ 7	235	228	△ 7	
当年度財源過不足額	3	64	61	59	37	△ 22	
累 積 財 源 残 額	286	387	101	345	424	79	

(注) 四捨五入の関係で、計と内訳とは必ずしも一致しません。

交通事業経営ビジョンにおける主要施策の取組等に対するご意見

基本方針	施策目標 (経営ビジョン該当頁)	主要施策	これまでの取組や今後の進め方に対するご意見
1 安全で信頼される公共交通	(1)安全性の向上(P28)	<ul style="list-style-type: none"> ①施設の計画的な改良・更新 ②運転技能向上への取組推進 ③安全管理体制の強化 ④軌道内電車優先運行についての啓発強化 	
2 便利で快適な輸送サービスの提供	(1)快適性の向上(P30)	<ul style="list-style-type: none"> ①車両の更新・改良 ②職員の接客マナーの向上 	
	(2)利便性の向上(P31)	<ul style="list-style-type: none"> ①情報発信の強化 ②ICカードシステムの活用 ③乗客需要に見合った適切な運行本数の確保 ④料金体系についての調査研究 ⑤交通機関相互の連携強化 	
3 まちや地域への貢献	(1)地域社会への貢献(P32)	<ul style="list-style-type: none"> ①地域を支える取組の推進 ②人にやさしい公共交通へ向けた取組の推進 ③環境負荷の低減 	
4 経営基盤の強化	(1)収益力の向上(P33)	<ul style="list-style-type: none"> ①市電の利用促進 ②広告料収入の確保 	
	(2)経営の効率化(P34)	<ul style="list-style-type: none"> ①コスト縮減の取組の推進 ②効率的な組織づくり 	